

Structure Kansai No.32 '92

支部発足10周年を迎えて 1992 新春



撮影時期：平成3年12月 大阪駅周辺
写真提供：㈱大林組



久徳 敏治

遅れ新春お慶び申し上げます。桃、栗3年、柿8年、関西支部もまる10年、あっという間の10年でした。'82.6のStruture Kansaiを紐解きますと発足時の賛同者は53名、現下では380名を擁する大所帯、隔世の感があります。ところで、大きいことがええことやと叫ばれた時代はとうの昔に過ぎ、21世紀を睨んで質の時代へと移行しております。それにしても昨今は軀体品質の欠陥が、監理の杜撰さが社会問題化し、新聞紙上を騒がせ誠に不本意なことでありました。これらは技術に対する慣れとモラルの低下に起因しております。このようなことの再発防止のためにも、当協会では技術者の自主認定制度を具体化し、技術の維持とモラルの向上に努めることを第一義に据えております。

さて、10年是一个の節目、この記念すべき年に当協会の年次総会を京都で開催することはまことに意義深いことと考えております。この場においても、認定制度についてのより深い理解とよりよい運営について議論を尽くす機会が用意されています。支部会員各位の多大なるご支援と、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。



青柳 司

新年明けましてお目出度うございます。早いものでもう10年という年数を聞くまでになったのですね。この間の関西支部の活動を簡単に振り返ってみると、広報委員会の関西ストラクチャーは読み易く定期的に発行されているし、事業委員会の行方見学会・定例研究会などは参加者が多く、技術委員会の各分科会も積極的に活動している。また、ゴルフを初めとする親睦会や新年の賀詞交換会・大会時の懇親会には賛助会員の方々も多数参加されていて、ほんとに良い関西支部に育ったなあと感じています。10周年を迎える今年は、大会が初めて東京以外の関西（京都）で行われることになりました。大会には各地から会員が来られます。6月5日は金曜日ですが交流をはかる良い機会ですので、ちょっと無理してでも出席されるようお願い致します。

日本建築技術者協会はもちろんのこと関西支部もこれを舞台にますます活発な活動をして行くことを期待しています。また会員の皆様の御健勝となお一層のご活躍を祈念致します。



能勢 善樹

構造技術者の集まる場を大阪であげてみますと、古い順に関西建築構造設計事務所協会・大阪建築士事務所協会構造技術委員会・新日本建築家協会近畿支部建築技術委員会構造部会、そして当日本建築構造技術者協会関西支部があります。勿論、後発のJSCAが最大組織で、構造技術者の活動家を殆んど網羅していますが、組織外の人も多くあります。構造技術者の力を結集する事からすれば非効率で、「数は力なり」の論理からは無駄をしています。それぞれが問題としている点が異なることは判りますが、得心できないものと私は思っていました。しかし、近頃は少し考えが違って来ました。非効率や無駄こそ文化であり、価値のあるものだ。組織本位主義で果して我々の望む職能（職業）の確立に向って行けるのだろうかという疑問です。数を頼んで監督官庁の認知を求め、相互依存の関係の中で他の数多の例のごとく利益団体化するなら淋しい事です。構造設計職能が退廃することなく誇れるものとするために、構造士の問題が浮上している今、よく考えなければと思っています。

支部設立10周年のあゆみ

昭和57年構造家懇談会関西支部として設立されてから今年で満10周年を経過した。支部会員総数は380名を数え、委員会活動や親睦会を通じて活発な会員交流が続けられている。

最近 5 年間の主要行事

昭和62年度	4月	・第6回支部総会 山田裕治氏 J S C A 関西構造家賞受賞 ・定例研究会（基礎分科会） 基礎構造における実務上の問題点	平成63年度	4月	・第2回支部総会 石田潤一郎、近藤一雄氏 JSCA関西構造家賞受賞 ・定例研究会「建築鉄骨のロボット溶接について」 基調講演（中込忠男氏） 話題提供（内田直樹、大塚芳弥、川上善孝、田中 収、深井敬三、藤平正一郎、丸岡義臣、三原清啓氏） 建築鉄骨のロボット溶接について、溶接ロボットの開発状況、鉄骨加工業界の適用状況、設計者から見たロボット溶接について
	5月 6月 9月 10月 11月 12月	・ゴルフ親睦会 ・瀬戸大橋架橋記念館、櫃石島架橋 見学会 ・東京ドーム「BIG・EGG」見学会 ・定例研究会 講演 J.井上氏 アメリカの建築事情と木造建築物の実情 ・ゴルフ親睦会 ・囲碁同好会 ・奈良シルクロード博 現場見学会 木造格子シェルのパビリオン		5月	・大阪東京海上ビル 現場見学会 ・シンポジウム「保有耐力を考える」 特別講演（山田 稔氏） 講師（鶴飼邦夫、金澤正明、菅野 忠、瀬川輝夫、寺本隆幸、尾崎昌凡氏） 保有水平耐力の現状と問題点、簡便な保有水平耐力の検討法、偏心を有する構造物の保有水平耐力
昭和63年度	5月 7月	・海外研修会 韓国（ソウル、慶州） 大韓建築学会と懇談 オリンピック施設、古墳公園見学 ・ゴルフ親睦会 ・第7回支部総会 斎藤幸雄、福本早苗氏 62年度JSCA関西構造家賞受賞 ・定例研究会「制震構造」 講演 制震構造のState of The Art （井上 豊氏） 実 例 （鶴飼邦夫、中川佳久、深野 慶、向井久夫氏） まとめ （南井良一郎氏）	平成64年度	5月 7月 8月 10月 11月 12月 2月	・ゴルフ同好会 ・大和銀行本店ビル 現場見学会 ・海外研修会 ニューヨーク最新建築事情視察 団長（森田司郎氏）、構造事務所訪問 ・シンポジウム 協賛（主催 日本建築学会近畿支部） 「観測地震動記録と構造物の安全性」 ・囲碁同好会 ・ゴルフ同好会 ・シンポジウム 協賛（主催 日本建築学会近畿支部） 「震度6、その時どうなる」 ・講習会「入門SRC造」 特別講演（松井千秋氏） 講師（佐々木照夫、寺戸芳久、藤田佳広氏） ・武庫川学院中高部プール棟開閉屋根 現場見学会
	11月 12月 2月	・高見フローラルタウン7番街15棟 現場見学会 ・囲碁同好会 ・（仮）和泉市立コミュニティ体育館、関西新空港埋立工事 現場見学会 ・講演会 「木の文化・石の文化」（横尾義貫氏）		3月	
平成元年度	5月 9月	・ゴルフ親睦会 ・日本建築構造技術者協会関西支部 設立総会 村沢藤四男、外村静夫氏 JSCA構造家賞受賞 ・記念講演会 「塔の思想」（原 広司氏） 「塔のテクノロジー」（金多 潔氏） ・設立記念パーティ ・定例研究会 司会（須賀好富氏） 「コンクリート建築構造物の工業化の現状と将来」 工業化生産の現状（古坂秀三氏）、大安つけもの工場の設計と施工（田辺恵三氏）、呉そごう百貨店の事例（岸 晃氏）、合成床版の現状とコスト（福山国夫氏）	平成2年度	5月	・支部総会 向井久夫氏 JSCA 関西構造家賞受賞 ・定例研究会 JIA, JSCAジョイントP.D 「建築鉄骨の柱・梁仕口部に関する諸問題について」 主旨説明（内田直樹氏） パネラー（須賀好富、山本豊弘、深井敬三、丸岡義臣、原田陽一郎、松井忠夫氏）
	10月 11月 11月 12月	・海外研修会（マレーシア、シンガポール） 最近の高層建築視察、マレーシア IEM及びA CEM、シンガポールIESとの懇談 ・囲碁親睦会 ・ゴルフ親睦会 ・シンポジウム 協賛（主催 日本建築学会近畿支部） 「設計用入力地震動と地震応答解析」 ・romaブリタ地震報告会 共催（主催 大阪建築士事務所協会）		11月 12月	・囲碁同好会 ・ゴルフ同好会 ・海外研修会 スペイン バルセロナオリンピック施設、セビリア万博施設 現場見学、グラナダ ・講習会 「わかりやすい鉄骨監理」（丸岡義臣氏） 「はじめてのPC・PRC構造」（松谷輝雄、須賀好富、徳永雄一郎、大内山正英、田中利幸、土居健二氏）

Strakuture Kansai バックナンバー紹介 (1987～1991)

VOL.	特 集 記 事	活 動 記 事	コ ラ ム
第 18 号 87・6	第6回支部総会 支部長挨拶 (久徳敏治氏) JSCA関西構造家賞表彰 (能勢善樹氏) 第4回受賞によせて (山田裕治氏) 関西支部5年の歴史 (5年間の主行事、バックナンバー)	定例研究会 (技術委員会基礎分科会) 基礎構造における…問題点 各府県会員の声 (滋賀県) 講習会—入門鉄骨構造— 見学記 (河島章男氏) 昭和62年支部技術委員会分科会活動予定	白色を楽しむ (中田啓一氏) 短い旅から (高松 伸氏) 構造法令専門資格認定試験実施 (須賀好富氏)
第 19 号 87・9	支部運営及び広報のアンケート調査結果報告 読売テレビ放送新社屋新築工事の紹介 (原 克巳氏)	見学記—瀬戸大橋記念館を見学して (須磨定夫氏)	道 (大西孝夫氏) ショートショート (金谷 弘氏)
第 20 号 87・12	平田定男氏建設大臣賞受賞 受賞によせて (平田定男氏) 「草創の記 (平田定男氏著)」の一読を! (久徳敏治氏)	定例研究会報告—J. Y. 井上氏講演「アメリカ建築事情と木造建築の実情」を聞いて (柏木良雄氏) 見学記—東京ドーム見学記 (川村佳則氏)	壁 (山田幸一氏) 山茶花の花 (大飼一夫氏)
第 21 号 88・2	7年目の期待 (久徳敏治氏) 新年を迎えて (青柳司氏) 木構造の可能性 (中東達男氏、木林長仁氏、川崎福則氏)	見学記—シルクロード博 木造シェルを見学して (谷尾俊弘氏)	海洋情報都市の構想について (寺井精英氏) 愚問四題 (俣野善治氏)
第 22 号 88・8	第7回支部総会 支部長挨拶 (久徳敏治氏) JSCA関西構造家賞受賞、受賞によせて (斎藤幸雄氏、福本早苗氏) 法人化の現状 (山口副代表) 講演会—制振・免振構造— (井上 豊氏、南井良一郎氏)	韓国オリンピック施設見学記 (五十嵐定義氏) 韓国建築事情 (斎藤幸雄氏)	
第 23 号 89・1	新春を迎えて ご挨拶 (久徳敏治氏) 構造家への要望 (松浦英一氏、柴田泰孝氏、鉄建技術委員会、田中 勲氏)	見学記—超高層RC現場見学の記 (北川 勝氏) 構造設計を考える (村沢藤四男氏)	韓国の古建築を巡って (金多潔氏) アジャンター (狩野忠正氏)
第 24 号 89・7	社団法人 日本建築構造技術者協会設立 法人化を迎えて (久徳敏治氏、能勢善樹氏、青柳 司氏) 本部総会・懇親会風景 (丸岡義臣氏) 会員数増加の推移 (林 保氏) 特別寄稿—新組織に思う (真塚達夫氏、須賀好富氏、内田直樹氏、松谷輝雄氏、木林長仁氏)		
第 25 号 89・11	(社)日本建築構造技術者協会関西支部設立総会開催 挨拶 (久徳敏治氏) 祝辞 (矢野会長) 記念講演を聞いて (榎原健一氏) JSCA賞受賞によせて (村沢藤四男氏、外村静夫氏) 関西支部組織および支部役員	技術委員会 分科会活動報告 鉄骨分科会 (内田直樹氏) コンピュータ分科会 (辻英一氏) RC分科会 (須賀好富氏) PCプレファブ分科会 (松谷輝雄氏) 基礎分科会 (棚橋秀光氏) 耐震分科会 (金澤正明氏)	
第 26 号 90・2	新年を迎えて (久徳敏治氏、青柳 司氏、能勢善樹氏) JSCA関西 海外研修会報告 海外研修報告 (西田 理氏、近藤正広氏)	定例研究会報告—コンクリート建築構造物の工業化の現状と将来— (須賀好富氏)	
第 27 号 90・10	JSCA関西構造家受賞者決まる 受賞によせて (石田潤一郎氏、近藤一雄氏) 第2回関西支部総会開催 定例研究会—建築鉄骨のロボット溶接について—	関西支部アンケート結果の報告 シンポジウム報告—保有水平耐力を考える— (金澤正明氏)	
第 28 号 90・12	JSCA海外研修報告 「ニューヨーク最新建築事情視察」 (森田司郎氏、馬瀬芳知氏、川村佳則氏、近藤一雄氏、八木貞樹氏、田口幸雄氏、近藤茂之氏)	1990年 技術委員会分科会活動報告 見学記—大和銀行本店新築工事見学会に参加して (川本 純氏)	
第 29 号 91・2	新年を迎えて 関西支部への期待 (矢野克己氏) 新年を迎えて (久徳敏治氏) 構造技術者への期待・苦言・要望 (西村征一郎氏、井関千雄氏、小西雅彦氏、八木 勝氏、若林広幸氏、池田秀行氏)	シンポジウム「震度6、その時どうなる」を聞いて (長谷川 博氏)	
第 30 号 91・7	平成3年度(社)日本建築構造技術者協会関西支部 通常総会開催 支部長挨拶 (久徳敏治氏) JSCA関西構造家賞受賞感想 (向井久夫氏) J.I.A・JSCAジョイントパネルディスカッション「建築鉄骨の柱・梁仕口部に関する諸問題について」	最新技術—ロボットによる全自動ビル建設— (森 哲郎氏) SRC講習会「最新の混合構造」を受講して (佐々木 照夫氏) 現場見学記—武庫川学院中南部ブル閉閉屋根を見学して (井上 繁氏)	
第 31 号 91・11	「建築構造士」資格認定制度についてのパネルディスカッション開催 建築構造士、資格認定制度について (馬瀬芳知氏) 意見 (能勢善樹氏、林 保氏、宇藤 功氏、柏木良雄氏、三原清敬氏)	PCプレファブ分科会より技術書刊行 (松谷輝雄氏) 学会東北大会見てある記 (花島 晃氏、亀井功氏) 構造計画分科会活動報告 (八木貞樹氏) 見学記 (近藤一雄氏、福本早苗氏)	地震工学の特殊な概念の英訳に関する提言 (ジョン・パチェラー氏)

コンピュータ分科会活動報告

主査 辻 英一

コンピュータ分科会活動状況を報告する。まず、メンバーであるが当初からの会員15名に今年9月より希望のあった9名を加えて24名ということになる。内訳は構造事務所7名、設計事務所6名、ゼネコン7名、その他所属4名である。

発足当時はまだ構造家懇談会であったこともあり、青柳 司初代主査の方針で懇談をしてきたが、平成から筆者が主査となってからも依然として同じ方針で今日に至っている。

すなわち、コンピュータとは便利なもので、建築構造にかかわるどんなことを話題にしても、結局はコンピュータと結びついてしまう。ということは、本分科会はどんなテーマをも話題にできるわけだ。

筆者が主査になってからは幹事会社の会議室で懇談するだけでなく「企業歴訪

シリーズ」と称して、今のところ主として会員各社の電算部門に出かけて行って、その組織でのコンピュータ利用を中心に特徴や活用事例、また、関係者にも入ってもらって運用上の人的な問題点に至るまで懇談するという形式を続けている。

構造設計とコンピュータという観点から関西の実態を目と耳と足で全貌を把握していこうというわけで、すでに10数社に及んでいる。部会員にとってもその全容が実感できるようになってきたと思っている。訪問にあたっては大体次のキーワードを念頭において話をすすめるようにしている。

■使用コンピュータ（機種・待ち時間・コスト）

■利用組織（分業体制・教育システム・プログラムなどの購入・開発意志決定システム）

■アプリケーションプログラム（購入か開発か・利用分野・利用プログラム）

■諸問題（コンピュータアレルギー・プログラムミス・運用ミス・マニュアル・構造計算書の保管・バックログ・開発者の能力枯渇・ローテーション・キャリアパス・プログラムメンテナンス・設計料での扱い・構造設計への影響・テクノストレス）などである。

陽のあたるコンピュータ利用の陰の部分についても議論ははずむことが多く、このスタイルでもうすこしつづけたいたいと思っている。

最後に、平成三年の歴訪記および平成元年度以降の訪問先と議論したテーマなどの一覧表を掲載することで内容の報告にかえる。なお、例会は2ヵ月に1回で年初のみ、新年放談会を行っている。

平成3年歴訪記

平成3年に6社を訪問し懇談した。この概要を順に紹介する。

まず第1回は、1月に安井建築設計事務所（幹事会社）で新年度の活動方針を議題として、新年会を兼ね懇談するのがここ3年間の慣例となっている。

この日はお屠蘇が入ることもあって、各人新年の抱負や時局の見解を述べあい、懇談会はいつしか放談会になることになっており、毎年これを楽しみにしているのは私だけではないようである。

第2回は、3月に石川島播磨重工業でパーキングタワーの設計法の説明を受け、工場を見学させていただいた。

パーキングタワー用の独自の一貫構造計算プログラムを開発されており、今後CAD・CAMへと発展していくものと考えられる。駐車場法の改正が大きな追風となって活気に満ちた職場となっていた。

第3回の5月は日本設計（大阪支社）を訪問した。

テーマは、大手事務所支社の実状見聞であったが、構造計算・CADにパソコンを綿密に配備し、高効率な作業環境を構築しておられ、圧倒される思いがした。

これは、同社一貫構造計算プログラム開発に携わった経験を持ち、電算機やパ

ソコンの利用に明るく、かつ構造設計実務にも精通した人が独自の工夫を凝らしたもので、人材の層の厚さを感じさせるとともに、得るところの大きい訪問となった。

第4回はシー・アンド・シー事務所を訪問した。

この事務所は、周知のとおり構造プログラム開発の先駆者で、構造設計とともに独特な業務を行っており、永らく依頼していた訪問がかなったのであるが、7月末でもあり馴染みの顔が揃ったこともあって、場を変えてビールを酌み交わしながら夕涼みのなかでの説明会となった。

第5回は9月に新日鉄CAD・CAMセ

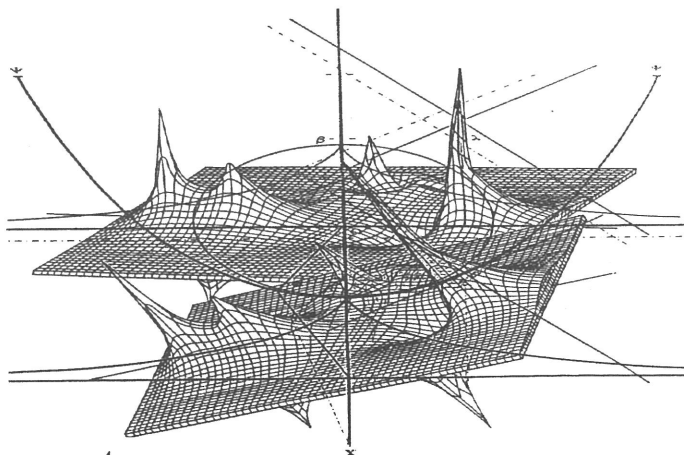
ンターを訪問した。

設計・ファブ・施工の各段階での図面の役割と、設計情報がすべて電子化された時代の設計図書のある方について考える、よい機会を持つことができた。

第6回は11月に構造計画研究所（大阪支所）を訪問し、構造関係者ならだれもが関心ある、高度な同社の開発プログラムおよび業務について説明を受けた。

同社の経歴および現在の業務の話は、われわれ構造設計者に励ましと自信を与えるものであった。

以上、歴訪の概要を紹介した。なお毎回快く訪問を受け入れて下さった各社にお礼を申し上げる。（北川 勝）



■平成元年

第1回 1月19日 安井建築設計事務所

- ① 本部コンピュータ部会について報告
 - ・建築センターより原器研究委託
 - ・構造設計におけるコンピュータ利用状況調査の実施
 - ・土質調査資料のデータベースの調査
 - ・データベースとネットワーク化について
- ② 関西支部の今後の進め方について討議
- ③ 新年懇親会

第2回 3月6日 鴻池組

- ① 鴻池組電算システム概要説明
- ② 構造設計におけるコンピュータ利用について懇談
 - ・使用コンピュータ
 - ・利用組織
 - ・アプリケーションプログラム
 - ・その他諸問題

第3回 5月26日 和田建築技術研究所

- ① 関東支部W.G.の活動報告
- ② 和田建築技術研究所電算システムの概要説明
- ③ 構造設計におけるコンピュータ利用について懇談

第4回 7月24日 松村組

- ① 松村組の電算システムの概要説明
- ② 施工図および構造図関係のCADについて懇談

第5回 10月27日 竹中工務店

- ① 竹中工務店電算システムの概要説明
- ② 骨組構造物の会話型ポスト処理プログラム(B-POST)の説明
- ③ 利用組織・プログラム利用上の諸問題について懇談

第6回 12月6日 日本総合研究所

- ① 日本総合研究所(旧社名日本情報システム)の電算システムについて紹介
- ② 主として図化システムについて意見交換
- ③ 年末懇親会(於住友クラブ)

■平成2年

第1回 1月18日 安井建築設計事務所

- ① 昨年度の分科会活動報告
本年度活動予定と開催日決定
3/28・5/23・7/18
9/26・11/28とする
- ② 東京W.G.の報告
- ③ 関西でのJSCAの活動などについて懇談
- ④ 新年懇親会

第2回 3月28日 長谷工コーポレーション

- ① JSCAコンピュータ部会(2.1.26)の報告
- ② 長谷工電算システム概要説明
- ③ 建築設計におけるコンピュータ利用について 懇談
 - ・構造図、施工図のCAD化
 - ・FABとの連携 協力事務所との連携
 - ・人手不足対策
 - ・設計の多様化
 - ・女性の活躍

第3回 5月23日 奥村組

- ① FORMIANシンポジウム紹介
- ② 奥村組電算システム概要紹介
- ③ コンピュータ利用について懇談
 - ・CAD化
 - ・運用体制
 - ・ローテーション、高齢化
 - ・ドキュメント作成

第4回 7月18日 日建設計

- ① JSCAコンピュータ部会(2.7.17)の報告
- ② 日建設計電算システム(主にCAD)の概要紹介
 - ・実施図面のCAD化と運用体制
 - ・プレゼンテーションへのCAD利用

第5回 9月26日 横川橋梁

- ① 横川橋梁の事業概要、CAD・CAMシステムの概要紹介
新工場でCAM稼働現場見学
- ② 構造設計者とファブリケーターの良好な連携のあり方について討議

第6回 11月28日 竹中工務店(竹友荘)

- ・JSCA東京コンピュータ部会員と情報交換および年末懇親会

■平成3年

第1回 1月23日 安井建築設計事務所

- ① 昨年度の分科会活動報告
本年度活動予定と開催日決定
3/20・5/22・7/24
9/25・11/20とする
- ・訪問先は構造事務所
総合事務所
ゼネコン
メーカーなどとする
- ② 東京W.G.の報告
- ③ 関西でのJSCAの活動などについて懇談
- ④ 新年懇談会

第2回 3月20日 石川島播磨重工業

- ① タワーパーキングの設計法の説明
- ② タワーパーキングの製作工場の見学

第3回 5月22日 日本設計

- ① 平成3年度からの技術委員会の構成・活動方針の説明
- ② 大手事務所支社の構造設計活動 日本設計の例を紹介
 - ・構造計算・CADにパソコンを綿密に配備
 - ・高効率な作業環境を構築
 - ・最少人数(2人)で多量の物件を処理
 - ・構造図CAD化率90%以上

第4回 7月25日 シー・アンド・シー事務所

- ① シー・アンド・シー事務所のコンピュータ利用について見学および懇談

第5回 9月25日 新日鉄CAD・CAMセンター

- ① 今回から新たな分科会参加希望者加入 総24名
- ② 新日鉄 CAD・CAMセンターの業務をヒアリングし、設計・ファブ・施工の各段階での図面の役割について討議・懇談

第6回 11月21日 構造計画研究所

- ① 構造計画研究所の経歴・現在の業務概要および同社開発プログラム等についてヒアリング
- ② 構造設計全般についての話題を交えて懇談

バルセロナに華ひらく ハポネスの構造技術

山田 稔

数百年前、世界の文化の中心として華咲いたイベリヤ半島で、コロンブスの新大陸発見 500年を記念して開かれるという、バルセロナ・オリンピック、そしてその「発見の時代 The Age of Discoveries」と名付けられ、大阪以来というセビヤ万博。彼コロンブスが、究極の地として求めた黄金の国ハポンの建築家、構造家が主体育館に腕をふるうという快

大スパン体育館の工法として、最初、神戸のポート・アイランドに1983～84年に建てられた体育館（川口衛：Nikkei Architecture, 1984, pp.102-109）でとられたと同じ様な、パンタグラフ方式のリフト・アップ工法を考えられ、これによって大スパンの実現を考え、デザイナーの磯崎新氏と協議された由である。ところが、磯崎氏は、リフト・アップの途中の段階で留め、建ち上がりの途中の姿を出してほしい、という注文を出され、結局、中腰のあの形がきまった由である。リフ

ていた事を思い出した。

リフト・アップは、プレストレスト・コンクリートのVSL工法で著名なスイスの施工会社ロージンガー社が担当し、これは特に指示通り、ピタリと要所を押えてくれたとか。リフト・アップ以外の、数千本に上る構造材、鋼管や立体トラスの接合に使われた引張接合用高力ボルト等、すべて、現地スペインの製造、加工である由。水素脆性のチェックに至るまで、きちっと実施されたという。すべてに鷹揚なラテン系の人達のせい、難しい事はちゃんとこなすのに、普通の事を普通にしてもらうのたいへん苦勞なさったそうである。リフト・アップにたづさわったゲルマン系のロージンガー社の人達とは好対照だった由。あの工事のため都合二十数回、スペインへゆかれたそうである。現地の評判がたいへんよく、日本人としてたいへん誇らしい、と通訳をつとめてくれた神戸大出身の虎岩さんの話を、お伝えしておいた。福井御出身の川口先生、関西へもよくおみえの様子だから、パラウ・サン・ジョルディ体育館を拝見した目で、お話を伺う機会があれば、さらに興味深いと思われる。こうして日本の建築家や構造家が、ヨーロッパやアメリカで活躍される時代が到来したことは、何より喜ばしい。本稿をここまで書きあげてきたとき、早大の松井源吾記念会から筆者のもとに、第1回松井源吾賞を川口先生が、この「サン・ジョルディ・パレス」でお受けになった旨の立派な記念パンフレットが送られてきた。構造技術者協会の皆様ともども、心よりお慶びを申し上げたい。

セビリヤ滞在の夕べ、大聖堂のはとりへ再訪したら、丁度、セビリヤ大学の建築学科学生が、大聖堂のスケッチを課されて、一生懸命にスケッチしているのに出くわした。聞けば秋入学したての1年生。35年前とちっとも変わらず、学生を



パラウ・サン・ジョルディ体育館

挙の見学に、構造技術者協会関西支部の皆様のご好意で、ごいっしょさせていただき、貴重な体験をさせていただいた。

オリンピックの主体育館パラウ・サン・ジョルディの構造設計を担当された。長友、法政大学の川口 衛先生には、帰国2週間目、12月の学会のさる委員会の席でお会いした際、雑談の端々に、御苦心の一端を伺うことができた。あのバルセロナのパラウ・サン・ジョルディ体育館の鏡餅のような2段重ねドーム。偏平長方形の中央上段ドームを、周辺の下段裾ドームが中腰で支える、という。一般に、ライズの低い大スパンドームやアーチでは、わずかのたわみの変化も、全体の応力分布に鋭敏に影響するので、構造設計も、施工技術も、細心の注意と綿密さが要求され、実現のための工程管理技術まで含めて、さぞかしたいへんだったろうと想像し、構造技術的には、たいへん難しいあの形が、デザイナーとの間で、どのように産みだされていったのかが、私にとって、いちばん大きな関心事であり、興味の対象であった。川口先生は、この

ト・アップしていった、ひとつの安定した形にフィックスする、ということなら、まだしも、リフト・アップの途中で留めてフィックスする。言うなれば、相模取が仕切って、立上りかけを停めるのだから、動を静に、しかも以後30年50年の年月にも持ちこたえさせるのだから、これは構造技術的には面白いが、なかなか難しい。これを、デザイナーの要望を容れ、見事に実現された川口先生の構造家としての卓抜した力量と手腕こそ、賞讃に値する。解析力と技術力の卓抜した川口先生にして、はじめて可能となり、実現できたのではなからうか。かつて代々木のオリンピック水泳競技場の釣屋根で、デザイナーの丹下先生の描かれた屋根のカーブのアクセントが、ケーブルネットの連続体としては、関数表現はきわめて難しく、構造の坪井先生、先生を支えた川口先生がたいへん苦心なさった裏話を、坪井先生から伺ったことがあったが一後日、朝日新聞が、あのカーブはコンピューターで算出された精妙な形……云々と、とんでもないとんちんかんきまる記事を出

日時：平成3年11月23日～11月30日
参加人数：総勢34名
団 長：山田 稔 神戸大学教授
行 程：成田→ロンドン→バルセロナ(2泊 オリンピック施設)→セビリヤ(1泊 万博施設)→グラナダ(1泊 アルハンブラ宮殿)→マドリッド(1泊 プラド美術館)→ロンドン→成田



ゲエル公園にて

学外へ連れ出してスケッチをさせ、建築ペン画の指導をしていた。みっちりと言ながらの建築教育がそこにあった。聞けば建築は医学とともに、この国ではたいへん難しく、5年で出られる人は少ないという。夕やみ迫るころ、例のカルメンのタバコ工場のセビリヤ大学へ帰っていった。

バルセロナにて

真塚 達夫

お盆とお正月が一緒に来た上にもう一つお祭りが加わったのが1992年のスペイン。4月から6ヶ月開催されるセビリヤ万国博に、夏休みはバルセロナでオリンピック、そしてコロンブスによる新大陸発見 500年祭と世界の目がヨーロッパの田舎へと注がれる。ロンドン経由でスペインのバルセロナ空港に到着したのは成田を出発して17時間後の夜9時、大理石の床とダブルスキンのガラス壁の国際空港は人も少なくオリンピック向けの施設としては合格点、踊場のあるエスカレーターに乗って、まづは銀行で両替して硬貨の厚さに驚く。「円」より高い「ペセタ」は値打もあるし、鋳造技術も素晴らしい。

ホテル迄のバスからみる夜の賑わいは土曜日の夜にしては静かであるが時間が早すぎたのかもしれない。とにかくその夜はぐっすりして寝るのみ。バルセロナの夜明けは遅い。9時にホテルを出発し日曜日の早朝の人通りの少ない街をガウディのパトロ邸を左にミラ邸を右にとバスの窓から眺めながらグエル公園へと急ぐ。朝のジョギングを楽しむ人に出会う高台のこの公園からは市街が一望出来るバルセロナのシンボル「聖家族教会」の塔



グエル公園 波うつベンチ

がその後には海をバックに2つの高層ビルが霞すんで見える。色彩豊かなおおらかな曲線が波打つセラミック・ベンチの広場は修復中で立入禁止、でもガウディの作品の「夢」と「おとぎ」の世界は到る所にあり写真でみてきたほどの強烈なインパクトはないが創造力のある不思議な空間に出会う。次に訪れた聖家族教会は今回の目玉の一つで期待に胸ふくらませて見上げる 107mの塔は天に突きささ

建築を理解するには、その建築空間に立った原体験こそ大切で、その原体験をふまえて、その社会と社会を構成している民族、そして民族文化、さらには気候風土の理解なくしては不可能であることを、今回もまた、しみじみと味わわせていただいた。分厚い葺土をサンドイッチにして葺かれたスペイン瓦の葺き方をじっ

り、100年後といわれる完成時の姿をもう一度生れ変わって再び見ることが出来るかとちらっと思う。狭いらせん階段で塔を登り、途中のバルコニーから見下すと着工後100年で出来た塔と外壁の一部が全体の輪郭を示している。メインの聖堂は柱脚の密集した鉄筋束が放置されて青天井である。永遠に工事中なのか、工事中でも観光資源である。塔群がパイプオルガンとなりコーラスが響きわたる聖堂の壮大さを空想する。スペイン市民戦



モン セラット

争の銃弾跡のあるゴシック地区の建物群を歩いてみてまわると13~15Cの世界にタイムスリップする。大聖堂は日曜日のミサで超満員、広場では楽団演奏で民族ダンスで賑わう。

昼食後モンセラットへ登る。ピレネー山脈が雪で覆われているのを遠望しながら頂上へ着く。高野山ともいふべき避暑地の修道院の聖地で、ごつごつとしてはいるがまろやかな岩肌の山々がガウディの発想の原点という。冬は閉鎖というホテルも今は週末を過ごした人々で賑わっている。数回もナポレオンに焼打されたこのドミニクス修道院の教会は8つの顔を持つ黒いマリア様が内陣に鎮座し、金銀宝石の祭具で飾られている。日曜日のミサには子供聖歌隊の天使の歌声を聞ける筈が時間が合わず下山のバス中でテープで聞く。

スペインの闘牛はシーズンオフだがフラメンコは年中無休で夜10時から始まる。若い踊り子の華やかさ、ベテランダンサーの床が抜けんばかりの迫力あるステップ、言葉はわからないが男性の高らかな歌声、でも居眠りする人もいて舞台から起こされる。12時過ぎの終わる頃には手拍子で両手が赤くなる。

くり見ながら、この土地の気候・風土を併せて、キリスト教文化とイスラム教文化が数百年にわたって融合して織りなされた独特の味わいのある文化の一端に接することができ、「よかった」本当に「やっぱり行って体験してよかった」というのがいつわらざる実感であります。

翌月曜日から本格的な研修でメーンスタジアムのある市南西部のモンジュイクの丘に直行。6万人収容に増設されたとはいえ小ぶりの感じがする。スタジアムは60年前のドメネク設計の原形を外壁に残したネオクラシックスタイル、保存する価値のある建築かと思える。隣りの磯崎新設計のサン・ジョルディ室内競技場は背後の稜線に合わせた曲線で構成され構法もパンタドームで 950t の鉄骨をジャッキアップしたとか、内部は日本の伝統ある回廊を思わせる波うつ木造天井が印象的、外構は工事中の論争中のタワーもあり完成した姿をオリンピック時にみるのが楽しみである。丘を下りると海沿いに大規模なウォーターフロント開発で活気づいている。60mの塔の上のコロンブス像が指さす海に背を向き続けた市街を海に向かって開放する開発は大会後に住宅に転用されるオリンピック選手村をはじめとしさまざまな施設が工事中で、日本のデベロッパーも超高層ホテル・デパートと進出している。工場や倉庫地帯を移転して排水をなくし、地中海の美しい浜辺に再生し、ヨットハーバーや選手村用のビーチとして整備している。水が透き通っている。

遅い昼食後市内の美しい傾斜した一対のスチールアーチの陸橋を見学してコロセロナの丘の上にある通信塔を見学する



通信塔

頃は夕日が沈む直前であった。ノーマンフォスター設計のマスト状のコアシャフト、スチールトラスとワイヤーの構造は「最小限の材で最大限の効果」を狙ったシンボリックな塔である。市民から景観論争が出るデザインではあるが全世界にオリンピックを中継するにはふさわしい。

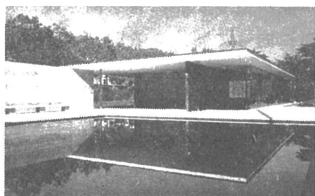
この日を夜はカタルニア音楽堂でモーツァルトをねむりながら聞いてホテルへ戻れば日付が変わっていた。

バルセロナ雑感

近藤 一雄

山田先生以下総勢34名の大団体で、成田への飛行機の中から盛り上り、無事定刻通り夕闇せまる新装バルセロナ空港へ降立ち、第4回JSCA関西海外研修が始まりました。夜遅く1人で大雨の中をサグラダファミリア教会へ行った18年前を思い出し、さっそく夜のバルセロナへ飛び出しましたが若い頃とは違い、身の安全を考え早々にホテルへ引き揚げました。

第2日目午前中は、ドメネク、ガウディ、ガダファルク等のモデルニスモの建物をながめながら、グエル公園、サグラダファミリア教会、カテドラルを全員で見学した後、数名でミロ美術館→バルセロナバビリオン→ピカソ美術館（ガイドさんの情報と違い閉館していた）と廻り、夕食前にカサミラ1階のBarでお茶を飲み、夜はフラメンコ見物と完全に観光客気分になりました。この日の圧巻は何と言ってもバルセロナバビリオンです。この建物は1929年に開催された万国博覧会に唯一外国から参加したドイツのレセプションホールとして使用された、ミースの設



バルセロナバビリオン

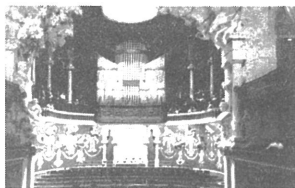
アンダルシアの熱い年を想って

田中 利幸

初めてスペインを訪れたのは19年前の夏でした。まだ海外旅行が盛んでなく、高価であったため、建築史の旅という本を一冊持って鉄道と安宿のきままな一ヶ月の旅でした。飛行機がロンドンまでしか行かないためロンドンからは船と鉄道の旅でしたが最も訪れたかったのは子供の頃よりの夢であったスペインでした。マドリッド、トレド、ガラナダ、バルセロナと約一週間旅しましたが、平原の変わらぬ車窓から忽然とマドリッドの街影が見えた時には鳥肌の立つ興奮を感じたものでした。道順を尋ねた時にその辺に人々が集まって来てあでもないこうでもない私達のためにいつまでも議論していた事、子供に軍服を着せた様な純心な眼をした兵隊、列車の同席したコ

計になるものです。わずか8ヶ月の命で解体されましたが1986年ミース生誕100年記念にあわせ、元の場所へ再建されたものです。建築の基本要素である縦軸と横軸で直線的に切られた非常にシンプルな建物で、LESS IS MORE, SIMPLISIT Y IS NOT SIMPLEと言うモダニズムの究極の姿を表わしており、我々日本人には共感を呼ぶ空間です。

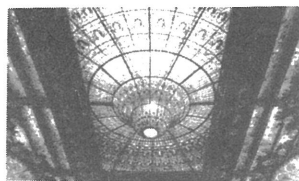
第3日目は、今回の旅行のメインイベントのオリンピック施設の視察と、フォスター設計になる通信塔の見学でしたが、オリンピック施設の見学の後、数名でバスを途中下車しランブラス通からLOEWE



カタルニア音楽堂舞台

の待つリェオ・モレラ、カサ・アマリエ、カサ・パッリョ、タビエス美術館と、モデルニスモ3大巨匠の作品を見学しながらホテルまで戻りました。夜は数名で、モーツァルト生誕200年にちなみ、モデルニスモの神髄カタルニア音楽堂へ、ロンドンシンフォニーのコンサートへ出かけました。現地の住民でもなかなか手に入らないと言う2階正面の特別席でモーツァルトを堪能して来ました。この音楽堂は、周囲からひとときわ華やかな気配を漂わせている、レンガとモザイクタイル

と彫刻で覆われた、モンタネールの設計による建物です。建物の出隅部にはカタルニア替歌にちなんだ彫刻が設置され、天井はバラのレリーフがちりばめられています。正面入口を入るとバーが置かれ



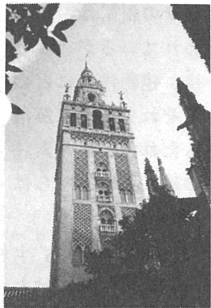
カタルニア音楽堂 客席天井

ており、ここでビールとサンドイッチで簡単な腹ごしらえをし、豪華なインベリアル式階段を上り客席へ入ると、まばゆいばかりの装飾に思わず息をのんでしまいました。舞台の両脇には彫刻が、また舞台壁には、伝統音楽を奏でる科学と芸術の妖精達18人のレリーフがパイプオルガンを囲んでいます。何と言っても圧巻は客席ホール天井の滴のように垂れ下がる大ステンドグラスです。前夜のフラメンコでは数名が居眠りをしていましたが今夜は唯一人としてゐる者もなく、我々のセンスがうかがわれます。興奮を鎮めにピカソが通った4 GATSでビールを飲み、思いつきモデルニスモを満喫した1日を過ごしました。それにしてもモデルニスモは「すごい」の連続ですが疲れます。バルセロナでは先にモデルニスモを体感し最後にバルセロナバビリオンに行かれる事をお薦め致します。

ンパートメントで大事そうに紙箱に入れた鳥を持っていた老婆、騙されたらいけないから基本的なスペイン語は覚えておいた方が良くと親切に教えてくれた品のあ中年夫婦等鮮明に思い起こされます。その中でも私に強烈な印象を与えたのは、アルハンブラ宮殿とフラメンコでした。どちらもキリスト教国の歴史に憧れ華やかな表の顔しか知らなかった私にとっては、表と裏の顔は同時にあるんだと語りかけたこの二つはミケランジェロのダビデ像と共に大きなショックであり、私のヨーロッパへの劣等感にも近い憧れを現実に引きもどし、人間の歴史であると認識させるに、十分な出来事でした。19年ぶりにスペインを訪問することは私にとっては楽しさと共に自身の感性のかげりを感じるであろうという恐れにも似た複雑な心境でした。今回フラメンコを

見なかったのは多少逃げていたのかも知れません。さて今回の私の分担であるセビーヤは幸か不幸か初めての所でした。人口約70万人スペイン第4の都市であり、イスラムの影響を強く残したヨーロッパでも人間を感じる最も魅力的な所の一つであるアンダルシアの州都です。人の表情や、人種も豊かであり、歩いているだけで気持ちの高揚する街です。キリスト教、イスラム教の影響を受けた中世の街並が続いていますがその中心地は、アルカサル、カテドラルなど興味深い建物が並んでいます。13Cにペドロ一世が当時唯一のイスラム教国となっていたグラナダより職人を借り受けて築城したアルカサルは、アラベスク模様と黒、白、緑、黄、青のイスラム教5色を用いたイスラム様式との折衷方式の興味深い建物でした。グラナダのアルハンブラ宮殿、

コルドバのメスキータと共にアンダルシアの三大建築といわれているのがセビーヤのヒラルダの塔です。古代よりフェニキア人やローマ人らの貿易中継地として栄えたセビーヤでイスラム教徒により建てられたメスキータがキリスト教国の占領により破壊され唯一残ったのがこの塔だそうです。高さ約100mのうち70mまでがイスラム風であり、その上にゴシック風の尖塔が14Cから16Cにかけられて増築されその頂部にヒラルダ（風見の意）がつけられています。いわばこのセビーヤ人が世界一と誇る塔も折衷方式なのです。この塔や、



ヒラルダの塔

ながら繊細で渾然とした美しさを示すイスラム様式であったらと思うと共に、厳然とそびえる塔を見て人間の美を求める心の素晴らしさと自己のみを主張しようとする心の醜さという二面性を感じずにはいられませんでした。

本年は1492年のコロンブスのアメリカ大陸発見以来500年の記念すべき年です。4月20日よりコロンブスの没した10月12日まで、コロンブスの遺体が安置されたカルツーハの修道院を中心として、「発

見の時代」というテーマで大阪万博以来の規模を有する万博が開かれます。開園を目指して、運河を掘り池を造り、215haの敷地に建物を建設している最盛期に訪問することが出来ました。すでに見学者も多く入口付近も活況を呈していました。私達も協会のバスに乗り換え、協会のエバ嬢の案内で4時間見学する事が出来ました。会場へのアプローチは市街地よりの徒歩、横付けされた鉄道、さらに貿易中継地らしい船の3つです。スペイン政府館と各州が池の周囲に配置され、アメリカや日本など観客動員数が多いと思われるパビリオンは奥にレイアウトされています。15C当時最も最端の地であった日本が、大国ゾーンの一角を占め、企業館も3館出展されるそうですが、5Cという期間は長いのでしょうか短いのでしょうか。テーマ館である発見のパビリオンや航海のパビリオンを中心として、各パビリオンは建設中ではありましたが、全体的に奇をてらったものは少なく、落ち着いた感じでした。灼熱の太陽、真青な空、一面咲きそろった真黄のひまわり、はるか遠方に見える赤土、夜ともなると哀愁のある声色をかなでるフラメンコギターと、祭りの主役は人々であり風土なのでしょう。建物はその風土の一部であり、日本の様に一過性のものではなく、博覧会終了後もアンダルシアの一部として生き続けるべきものなのでしょう。日本館は、木で構成された単純明快な建物です。何より素晴らしいのは、アンダルシアの中に、独特の木の香りのする空間

を提供したことでないでしょうか。世界のどこへいってもその土地特有の臭いを持っています。雑多な文化の共存するアンダルシアにあって、香りのみならず日本の臭いのする一角となる可能性を有



万博日本館

した空間である事に感動しました。会場をとりまく川と運河に11の橋がかかっていますが7つが新設されました。その中でもカトララヴァの設計になる斜張橋は170mの桁を140mの支柱より張られた28本のワイヤで吊られたもので、一つの景観を提供していました。また感心させられたものに高速道路があります。非常にシャープに目立たず周囲の景観を壊すことなく建設されていました。橋、道路等の土木構造物がデザインされ、自己主張というアンバランスにより全体として構成されるバランスとは違ったバランスを形成することによる街全体への心遣いを感じました。全体的に工期が遅れているとの事でしたがバルセロナやセビーヤに長く住んでおられる日本人ガイドの「スペイン人はやる気になれば必ずやりますよ」と口を揃えた言葉が印象的でした。市街地と一体となった会場で会期中訪れるであろう4000万人の人々が、アンダルシアの人と風土に酔いしれる事でしょう。

グラナダ市内雑感

榎原 健一

■ムーア人の都

グラナダの歴史を紐解くには、スペインの歴史、特にレコンキスタについて調べる必要がありますが、もちろん私にはその能力も時間も無く、ただ分かっていることはグラナダが長い間イスラム人の都であったこと、1492年コロンブスがアメリカ大陸を発見したのと同じ年に、イスラム人はアルハンブラ宮殿をカトリック教徒に明け渡したということです。そういうだけでとてもロマンチックな響きがあるのですが、グラナダという名の由来はともかく、赤く甘味な顆粒を持つ「ザクロ」という意味であるのを知ったときは、なお甘い響きを感じました。

グラナダで我々が泊まったホテルは、

グラナダ市中心部より「ザクロの門」をくぐって岡の上、アルハンブラ宮殿のすぐそばにあるのですが、そこから見たグラナダの夜景は何の歪みもないもので、いささかがっかりしました。しかしその翌朝、東側の窓を開けて見た景色はまさに絶景で、アルハンブラ城壁の向こうに



グラナダ市内

雪をかぶったシエラネバダ山脈が見え、朝日がまさに昇ろうとしているところでした。そしてしばらくするうちに、太陽の光が増えるにつれて旧市街地の屋根と

樹木の色が様々に変化してゆくさまは、もうこれだけでここに来た価値があると思わせるに充分です。

スペインのヨーロッパにおける特異性は、ひとえにその歴史によっているのだと思いますが、特に800年にわたるイスラム統治の影響が強く表れていることでしょう。ムデハル様式と呼ばれる建築はもちろんのこと、バルセロナにおけるモデルニスモの建築にも何かしらイスラム風の影響を読みとったのは筆者の独断かも知れませんが、いずれにせよイスラム建築の代表として、完全な形で残っている「アルハンブラ宮殿」があり、我々はゆっくりとこれを見学しました。

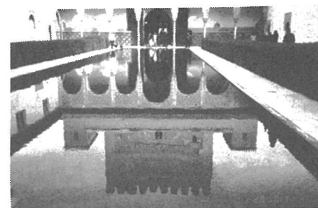
■構造を無視した建築

アルハンブラ宮殿については多くの方がすでにご存知だと思いますので、にわ

か勉強の知識をここでは差し控えることにして、次の堀田善衛氏の言葉を引用させて頂きます。「もちろん飾り過ぎだ、という人があるにきまっている。しかしそんなことは先刻承知の上のことなのであって、装飾のために構造をかくまで無視した建築というのも少ない筈である」(「美しきもの見しひとは」)。

とにかくアルハンブラの美しさは、イスラムの美しさ以外の何物でも無いと思うのです。その特徴が最も表れているのは「連続するアーチ」の美しさにあると思いますが、さらに構造屋の立場から言わせてもらおうと、こんなに華奢な構造体であって、しかも幾世紀にも亘って残ってきた建築が他にあるのだろうか、ふ

と考え込んでしまいました。



アルハンブラ宮殿(コマレス中庭)

マドリッド市内雑感

高木 和芳

11月28日、グラナダよりタルゴにて六時間、首都マドリッドに入る。ヨーロッパの首都の中では、一番高い場所(標高646メートル)に位置する都だそうである。

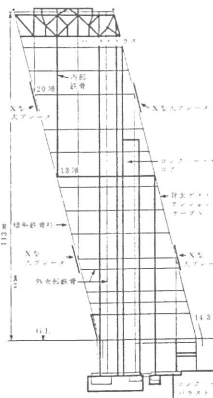
古くて新しい町マドリッドは、かつて世界を支配したスペイン帝国の歴史が染み込んだ町である。残念ながら私は、マドリッドでは、あまり多くの建物を視察しなかったため、マドリッド観光案内のような手記になってしまうが、ゆるして頂きたい。

18世紀カルロス三世は、マドリッドの都市計画と美化に努めたと云われ、石造建築物のブラド美術館をはじめ、多くの古き良き建築を残している。このブラド美術館の『ブラド』とは、スペイン語で草地という意味だそうである。カルロス三世は、この草地を整備して天文台、植物園、自然科学史博物館などの建築計画を行なった。そして彼は、それまでのパロック様式を頑なまでに嫌いロマンチズムの様式を取り入れていったようであ

る。美術館内のコレクションについては、ここで説明するまでもないが、スペインを代表するエル・グレコ、ベラスケス、ムリーリョ、ゴヤなどの世界有数の名画を展示している。このブラドで感激したことは、名画の前にガラスも棚も無く写真撮影もオーケーということであった。

旧市街地から北へのカステリャーナ通りには、超高層ビルの立ち並ぶ現代のマドリッド副都心がある。ここに大通りを挟んで道路面に

傾斜させた高さ113メートルのツインのオフィスタワー プエルタ・デ・ユーロパが建設中であつた。現在は、内部のRC造コア部分が垂直に建ち上がっており完成時の傾斜したプロポーションは、感じられ



プエルタ・デ・ユーロパ
構造概念図

ないが完成時には、足元よりも最上部が29メートルも張り出した型になる。イタリアピサの斜塔(高さ54メートル直径17メートル)を高さ幅とも約二倍にしたスケールである。ピサの斜塔は、いずれ倒れるだろうと云われているが、このプエルタ(ゲート)は、建物内外にどのようなクレープを生じそれを如何に解消しているのか興味がもたれた。また素朴な疑問だがこの建物の建築面積とやらは?.....。

商売柄もうひとつ紹介したいのは、セビーリャ、アルカサル宮殿で見かけたアラブ線条細工の優雅な装飾に、アフリカの木材を駆使した寄木作りである。この寄木作りは、日本の仏像などに見られる手法とは、ずいぶん異なり数センチの大きさの木片に彫刻、采色を施しジグソーパズルのように組み合わせトビラや壁、天井などを作り出しているのである。これは、木という性質をよく知った手法であり、いわゆる集成材の原点のようでもあった。

●支部の動き

- ・10/30 海外研修会説明会
- ・10/30 公報委員会
- ・11/7 総会準備特別委員会
- ・11/7 支部役員会
- ・11/23~30 海外研修会(バルセロナ、セビリア、グラナダ、マドリッド) 参加者 34名
- ・12/5 技術委員会
- ・12/5 講習会「わかりやすい鉄骨監理、初めてのPC.PRC構造」於建設交流館
- ・12/12 上記講習会を再度開催
- ・12/14 建築9団体合同忘年会

・'92 1/6 建築11団体新年交礼会

- ・1/22 広報委員会
- ・1/28 技術委員会
- ・分科会活動

P.C 11/8

構造計画 11/19,12/12

コンピュータ 11/23,1/23

耐震設計 11/26,1/28

基礎 12/3

・ゴルフ同好会 11/19 於伏尾G.C

・囲碁同好会 11/9 於燦柯

●事務局のお知らせ

平成4年度の全国の総会が下記の如く

初めて関西で開催されます。奮ってご参加下さい。詳報は後日ご案内します。

日時 平成4年6月5日(金)

場所 京都国際交流会館(京都市左京区)

事業 10:00~11:00 支部総会

12:00~13:00 総会

13:10~15:40 技術フォーラム

同時進行 会員討論会

16:00~17:30 講演会(講演者

シーザー・ペ

リ氏)

18:00~20:00 懇親会

編集後記 新年号、支部創立10周年号、スペインツアー報告特集号と、ずいぶん欲張ったサブタイトルがつけました。また、分科会活動も、コンピュータ分科会より3年間の活動報告をいただき、年末年始のあわただしい折にもかかわらず、寄稿いただき編集担当として感謝にたえません。(担当 板垣・高橋)

発行(社)日本建築構造技術者協会関西支部事務局
 ㈱竹中工務店大阪本店設計部 担当 俣野 博
 TEL (06)538-5371-(5700) FAX (06)538-5445